

横浜実践看護専門学校

令和5年度学校関係者評価 報告書

1. 学校関係者評価委員会実施要領

日 時	： 令和6年10月18日(金) 10:00～11:00
会 場	： 横浜実践看護専門学校 8階 808・809演習会議室
出席者	〔学校関係者評価委員〕
・ 土屋 恵美子様	（横浜市立市民病院 副病院長 兼 看護部長）
・ 出口 孝子	（独立行政法人地域医療機能推進機構 相模野病院 看護部長）
・ 獅々倉 聡	（神奈川県立平塚湘風高等学校 校長）
・ 鈴木 理香	（医療法人財団ユニメディコ 佐藤内科クリニック 主任）
	〔本校教職員〕
・ 山川 美喜子	（校長 兼 経営管理チームグループリーダー）
・ 井上 登美子	（経営管理チーム サブリーダー）
・ 廣田 晶子	（教務チーム グループリーダー：教務主任）
・ 櫻井 道子	（教務チーム サブリーダー）
・ 椎名 慎平	（教務チーム サブリーダー）
・ 大川 やよい	（教務チーム サブリーダー）
・ 高橋 日奈子	（教務チーム 実習調整）
・ 山田 靖子	（教務チーム 実習調整）

2. 自己点検評価結果報告および各項目に対する学校関係者評価

(1) 教育理念・目標

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
・学校の理念・目的・人材育成像は定められているか ・社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構造を描いているか ・学校における職業教育の特色は明確になっているか ・理念・目的・目標育成人材像・特色などが学生、保護者等に周知されているか	・学校の理念・目的・人材育成像について定めた上で、学生便覧・学生生活の手引きに明記している。新型コロナウイルス感染症による行動制限も解除され、コロナ禍以前の学校生活にもどりつつある。 ・入学後、看護学校の3年間は、看護師の責任の重さを認識し、自分は看護師になりたいのか、看護師にはならず進路変更をするか迷う学生も多い。学生個々の状況に応じ、看護への関心とモチベーションの維持が課題となる。卒業時のゴールが明記されているカリキュラムマップや目指す看護師像マップを活用し、自分が今何を学び、ゴールを学生とともに共有し指導につなげる。 ・学生の成長や学びを支え自立を促す家庭の役割は職業教育において重要である。保護者と学校との円滑な関係を築くことは、卒業までの3年間で国家試験合格に向けた学生の学習意欲の向上に繋がる。学校から積極的に保護者へ働きかけ、家庭と学校でのダブルサポートを徹底していく。3年生の保護者にはクラス便りを後期初めに配信していく。本校の人材育成像を周知していく。	・学生・保護者・教員の3者が学校の理念や目的を共有することは大切である。対面での保護者会、クラス便りの配信など、保護者に学校生活の情報提供することは意義がある。 ・3年間で学生は、自分の看護師像を描きながら成長していることがわかる。今後も、保護者と連携し学生をサポートすることは必要である。

(2) 学校運営

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
・目標等の沿った運営方針、事業計画が策定されているか ・運営組織や意思決定機能は規則などにおいて明確化され機能しているか ・人事・給与に関する規定は整備されているか ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	・学生や保護者からの問合せや面接は、校長・教務主任・学年担任を中心に対応している。対応した内容については、定期ミーティングや定例会議、グループワークを通じて教職員間で綿密な情報共有を図っている。 ・改善可能な内容については、改善策を打ち出し対応をした。個人情報保護と守秘義務については十分配慮し遵守した。 ・学園本部と連携を図りながら、情報システムの導入、ITを活用した効果的な教育ならびに業務管理を目指していく。業務も会議、連絡等において、各種オンラインツールを積極活用を継続する。	・情報社会の環境において、SNSの取り扱いは今後も徹底し、個人情報保護と守秘義務について遵守する。

(3) 教育活動

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
・教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されているか ・教育理念・育成人材像や看護師需給を踏まえた修業年限に応じた教育到達レベルや学習時間の確保は明確か ・カリキュラムは体系的に編成されているか ・キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ・関係施設等、業界団体との連携により、カリキュラムの教育方法の作成・見直し等が行われているか ・関連分野における実践的な教育が体系づけられているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ・資格取得の指導体制、カリキュラムの中で体系的な位置づけはあるか ・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	・コロナ禍の影響は軽減されたものの、オンライン授業も一部併用した。実習は基礎看護実習Ⅲの1病棟のみ学内実習に置き換え実施した。効果的な学内実習になるよう教材用電子カルテを活用した。今後も感染症だけではなく、学習環境に何らかの制限が起こりうる状況は予測できるため、学内だけでなく近隣の学校や施設の状況などの把握とネットワーク作り、協力体制の構築が課題である。 ・看護学の土台となる解剖生理学を対面で専任教員が担当し、毎回確認テストを実行して、知識の習得を図る。 ・令和4年度の看護過程の学習会を土台に、令和5年より新たに運用を実施した。授業や実習での運用状況と学生の反応や理解度など随時情報交換を実施した。学生だけでなく教員の不安や疑問点を明確にししながら、指導の方向性確認や指導方法について対策を共有した。実習施設にも打ち合わせ時、看護部の教育担当者や実習指導者に説明を行い、問題なく運用ができた。新カリキュラムでの領域実習が8領域で運用開始となるため、実習指導についての情報共有が課題である。 ・教育効果を最大限に引き出せるような新カリキュラム運用の評価と改善点の洗い出し、教授方法の見直し、キャリアビジョンを考慮したシラバス学習内容の具体化などの見直しを行う。 ・旧カリキュラムにて卒業をする学生4名の確実な単位履修に向け、計画的に学生自ら学習に取り組めるようサポート体制を継続する。実習調整・講師・実習施設と単位未履修の学生の情報提供と情報交換の実施、履修計画の相談と履修状況の確認を定期的に学生と継続 ・学力低迷者の本試験不合格者が多い科目は補講をして十分学習したうえで再試験に臨む体制を整える。特に学習習慣のない学生はどのように勉強したらよいかわからない声があり、チューター活動を活用し、上級生にノートの取り方、実際のノートを提示してもらうなど具体的な指導をする。	・高校における学力の2極化も問題となっている。成績低迷の学力は、中学のレベルにも届かな生徒も、毎年増加している。また、学習習慣もない状況である。基礎学力低下の学習指導は大きな課題となる。 ・学習意欲のない学生の場合には、自分事として課題をとらえていない学生もいる。目的意識をどのように持たせていくのが大事だと考える。そのためには、教員からの言葉がけが重要であると思われる。 例えば、学生のやる気を引き出す、「ベップトーク」研修会の開催なども視野に入れることも必要である。

(4) 学修成果

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	・病院説明会やインターンシップに参加しながら就職活動を行った。看護職として就職をしないと決めた学生1名を除き、全員が希望する就職先に就職ができた。 ・国家試験合格率は全国平均を上回る結果（91.0：全国平均87.8%）となった。とはいえ不合格者を出している現状であり、継続して100%の合格率を目指し、対応を進めたい。 ・3年次担当教員を中心にデータ分析と、これまでの丁寧な個別指導対応に加え、学内、学外の国家試験対策施策を積極的に導入。臨床判断能力に必要な基礎知識の獲得は必須である。模試の効果を判定しながら、不合格者の要因分析を踏まえ、より効果的な国家試験対策施策を見極めて行く必要がある。	・臨床では新人看護師はがんばって仕事している。しかし、自分の課題に向きあえない、多重課題に対応できない新人看護師も目立つ。個別性に応じ、ゆっくりと時間をかけた指導をしている。

(5) 学生支援

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備できているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・保護者と適切に連携しているか ・卒業生の支援体制はあるか ・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	・5類にコロナ感染症が位置付けられたことにより、感染症対策も大幅に変更された。保護者会も対面で実施し、質疑応答では、学習の取り組みや試験対策、学費や奨学金、国家試験対策など活発に意見交換を行った。保護者の目で学習環境を見たり、教員と直接関わることが学校との信頼関係の構築には重要である。ナースングセレモニー、卒業式の開催についても、感染状況に合わせ開催の検討が課題である。 ・高校生との連携は、総合学科の高校生の体験講座を受け入れ（8月）、卒業生の連携は連絡体制の強化も継続している。また卒業生同士のネットワーク構築により、お互いの現場の現状を知る機会となる。 ・在学生にとって卒業生の話を直接聴く機会は、在学生のモチベーション向上につながった。卒業生の来校時期や対象学年のレジネスを合わせた企画内容の精選が課題である。 ・学年担当による個人面接の実施、実習担当教員との面接、チューターによるサポートなど実施した。 ・経済的問題を抱えている学生も増えている。奨学金担当者との情報提供や情報共有も課題である。 ・担任制の更なる充実と、保護者との連携を強化することで、学校と家庭でのダブルサポート体制を充実させ、学生の状況把握や学習支援、生活支援を進めていく。 ・新カリキュラムでは、多職種連携や、より実践に近い判断能力が重視されている。そのため、科目に応じ、臨床で活躍されている専門看護師に、講義を依頼している。最新の現場の状況や知識に繋がる実習への意欲向上、そして学校や学生を知ることにつながる。講師が看護基礎教育の理解促進や学習内容の精選について継続、評価が必要。	・説明会や保護者とタイムリーな連絡など、保護者との連携は重要である。連携により、学生サポート体制を整えていることはとても良い。 ・卒業生のリアリティショックによる早期退職を今後生まないためにも、臨床現場と学校が一体となり情報の共有を行い、フォロー体制を整えていきたい。リアリティショックが発生した際には、その内容を臨床現場（実習先）へ情報共有してもらい、臨床現場から、更には実習の段階からリアリティショックの防止に繋げる取り組みを行っていく。 ・学生の看護専門職への認識を深めていくためのきっかけを実習の中でも適切に与えていけるような環境、指導の徹底についてより考えていく必要がある。

(6) 教育環境

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
・施設設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場などについて十分な教育体制を整備しているか ・防災に対する体制は整備されているか	・看護学校の施設として10年経過のため、施設の点検を実施、プロジェクターの交換をした。修繕計画と予算確保をする。 ・防災管理担当者を中心に、月1回の設備点検、年2回の備蓄点検を実施。教職員、学生ともに避難経路の確認や訓練を実施し、防災への関心を高めている。 ・学校施設及び備品の点検作業を行い、順次ブラインドの交換やLED交換などの修繕計画立案を実行。	・全委員の総意により適正に評価できているという結論に達した。

(7) 学生の受入れ募集

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
・高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取り組みを行っているか ・学生募集活動は、適正に行われているか ・学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか ・学生納付金は妥当なものになっているか	・学生募集活動については、ブランディングによるイメージ強化を図り定員確保に努めた。今後は本校独自の魅力を伝え、看護職になるための志願者を増やすことが課題。 ・本校独自の取り組みや、看護職の魅力を発信するページなどを新たに設けられるようWebサイトのリニューアルを実施し、情報発信を強化する。 ・Instagramのストーリーズなどを活用し、本校の情報を多角的に発信し校名認知促進を図る。 ・高校新卒者については、引き続き高等学校の進路担当教員との連携を深め効果的な受入れを行う。また、現役生、既卒生それぞれの関心事に合わせた募集イベントを設定し、募集間口を県内の大学、近隣の他県にも拡大する。	・積極的に高校訪問を実施し、高校との信頼関係を築いている。

(8) 財務

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開監査の体制整備はできているか	・学校の予算計画を基に財政状況は適正に運営している。 ・教育設備の導入にあたっては、教育カリキュラムにおける学生の使用頻度等の妥当性と老朽化を精査し決定する。学生の成長に資するために、導入設備の利活用を学校全体で共有する。	・全委員の総意により適正に評価できているという結論に達した。

(9) 法令等の遵守

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
・法令、保健師助産師看護師法、専門学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に関し、その保護のため対策が取られているか ・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか ・自己評価結果を公表しているか	・法令等の遵守は、行政指導のもと適切に実施し、情報公開をしている。今後も点検項目や評価基準及び手法の妥当性について精査を進める。 ・医療従事者としての守秘義務を徹底すべく学内外にわたり指導している。 ・ユニフィケーションの一環として臨床現場との連携を図り、より実践力を備えた教育の向上を図る。 ・デジタル社会における個人情報保護の意味について法令を遵守するよう学生に周知徹底をする。	・全委員の総意により適正に評価できているという結論に達した。

(10) 社会貢献・地域貢献

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。 ・ボランティアなどの社会活動に参加しているか。	・県内総合高校に通う高校生20名を受け入れ、本校ならではの学びを提供。看護職について学習を深め、実習室を利用し看護体験を実施した。 ・がん患者さんが歌う第九チャリティーコンサートに向けた合唱練習の受付・誘導ボランティアや、認知症高齢者とともに走るチームオレンジとしてボランティアなどに学生有志が積極的に参加。社会活動にも貢献している。 ・地域連携講座や神奈川県との包括協定などボランティア活動を計画的に紹介し、学生が社会・地域貢献することにより自らの成長に繋げる。	・感染対策による行動制限も緩和され、学生が時間を有効活用して、積極的にボランティア活動に参加することは非常に良い。今後も、学生が主体的かつ計画的に参加し、社会貢献することによる学生の成長にも期待したい。

(11) 国際交流

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか ・国際交流を意識した授業科目が設置されているか ・国際的視野を広げるための学習環境を整えているか	・1年次では医用英語、2年次には国際文化交流の科目を設置。国際文化交流では3泊4日で台湾研修を実施した。高雄市にある輔英科技大学看護学科の学生との交流や医療施設の見学を通じて他国の医療体制や異文化の価値観の違いなど多様性についても学んだ。国際的視野を広げるための一助となった。 ・感染症や国際情勢などを鑑み、今後も国際的視野を広げるためのカリキュラムを充実する。	・海外研修により、他国の医療現場の見学、看護学生との交流、異文化に触れることは有意義な学習の場となっている。国際交流Ⅰ・Ⅱは学校独自のカリキュラムであり、意義のある科目となっている。